



## これからが旬の「赤い本」のお話

各学年フリースペースの本棚に教学社の「大学赤本シリーズ」通称「赤本」が置いてある。創刊は1954年というから、今から70年前にはあったことになる。当初はわずか3銘柄から始まったものが現在、554銘柄を刊行しそれに携わった解説者は1,000人を超えるという。

皆さんはこの「赤本」の最初に書かれている「はしがき」が毎年異なるのをご存じだろうか。私はこの「はしがき」を毎年楽しみにしている。その中でも特に印象に残ったものをここでは紹介するので、自分の手元に「赤本」があれば手に取って読んで欲しい。なぜなら、「はしがき」には発刊当時の世相が反映されていたり、受験生に対する著者の熱いメッセージが込められていたりしているからだ。

以下2017年版の「赤本」の「はしがき」である。



大学入試の季節が近づいてきた。寒い雪の日の朝、電車の中で受験生と思しき若者が単語帳を開いているのを見るにつけ、もうかれこれ数十年前になるが、かつて自分自身が受験生だったときの姿を重ねてしまう。

高校3年生の冬、受験に失敗した。後で振り返ると、漫然と塾や予備校に通い、基礎もできていないのにレベルの高い参考書に手を出し、やった気になっていた。実際はたいして勉強していないのに、根拠のない自信と慢心があって、案の定それはもろくも打ち砕かれた。大学で何をやりたいのかさえはっきりしないまま、よく考えずに志望校を決めていた。

浪人して改めて自分を見つめ直し、多くの本を読んだ。1年間の計画をしつかりと自分で組み立てたいと考え、自宅浪人の道を選んだが、思い返せば、悶々ともがき苦しみ、天井を眺めてはのたうち回るような日々であった。自分を見失い、自堕落な毎日をすごすこともあったが、試行錯誤の中でなんとか目標を見定め、少しずつ自分のペースをつかめるようになっていった。

受験当日のことはほとんど覚えていないが、手応えはあったものの、自信があるというわけではなかった。合格発表の日もすぐに見に行く勇気がなく、行ったときには既に掲示板のまわりは閑散としていたが、張り出されていた小さな紙に自分の受験番号を見つけたとき、しばらくその場に立ちつくして離れることができなかった。大学受験はあくまでも人生における通過点にすぎず、それ自体が目的ではないのだが、受験を通して身につ

たこと、学んだことはもちろん、様々な努力と試行錯誤を重ねた経験は、将来なんらかの形で人生の支えとなるかもしれない。雪の日に受験生を見かけるたびに、もう一度やり直せと言われてもできないような濃密な日々を懐かしく思い出すのである。

最後になったが、家族や友人など、支えてくれる周囲の人たちへの感謝を忘れず、受験本番で持てる力を存分に発揮できるよう健康管理にも十分に注意し、見事合格の栄冠を勝ち取られることを願ってやまない。

## 編者しるす

1,000人もの解説者がいるのだから、それぞれが色々な人生を歩んできたことは、冷静に考えれば分かること。それでも赤本の編者が、基礎も出来ずに高い参考書に手を出し受験に失敗、その後の浪人生活の悶々とした不安や苦しみを、「はしがき」に書いていたことには、驚きと共感を覚えた。

ここからは特に3年生へ向けての意味合いが多くなる。受験生は時間が無くなればなくなるほど、目の前のことだけに注意が行きがちだが、過去の問題に触れるだけが「赤本」の役目ではない。知っている人もいるとは思いますが、「入試状況(志願者数・競争率など)」や受験年度ごとの「合格者最低点・平均点」。それから各学部の合格者による「合格体験記」と、同じく「受験のアドバイス」・「科目別攻略アドバイス」と、受験生への有効な情報が満載だ。過去問に手をつけるだけで、これらの情報に目を通さないのは勿体ない。

因みに最新の「赤本」鹿児島大学文系・理系の「受験アドバイス」から一部紹介。【時間を上手く使うためにしていた工夫を教えてください】やはり大敵なのはスマートフォンやゲーム機です！自分で使用を控えることはなかなか簡単ではありません。そこで、私は画面の色を白黒にし、見ていて疲れる画面、みたくない画面を物理的に作りました。そうすることで時間を無駄にすることなく、より勉強に集中することができました。…文系

【「赤本」の有効的な使い方を教えてください】赤本は13年分を解きました。難易度や傾向はそれほど変わらなかったのも、時間が許すだけ、同じ大学の問題にたくさん触れました。実際に受験した年度にも似たような問題が出ていたので、やっておいて損はないと思います。特に、直近3、4年分は繰り返し解いて鹿児島大学の形式に慣れることで、初めての問題でも徐々に解き終えるまでの時間が減っていきました。…理系



## 「苦しい時期を耐えてこそ」



最近の若者言葉に「ギョられる」という言葉があるそうです。意味は英語の singularity から来ていて、AI が人間の知性を超え、加速度的に進化する転換点のことだそう。「ギョられる」とは、仕事が AI に取って代わられることで、大学生は就職先の将来を考えて AI に取って代わることがない職種を選ぶ必要があります。私の時代は就職氷河期と言われましたが、今の時代は AI と競争しなければならないようで大変ですね。さて、話は変わりますが私の趣味に、“盆栽”があります。若いころは植物など見向きもしなかったのに 10 年ほど前から不思議と植物に興味が湧くようになりました。人間も凡才だからかもしれません。古い松の盆栽を見ていると佇まいに力強さと年月を感じ自分自身も力をもらいます。梅桜など花の咲く樹木は美しく心が癒されます。実が成る樹木は何だか自分の努力が結実したような気持ちになります。盆栽は鉢の中で生きているので水や栄養は制限されています。その為人間が外部からそれらを補ってやらなければ生きていくことができません。盆栽に水をかける作業は意外に難しく樹種によっては水を遣りすぎると枯れてしまい、逆に多めにかけないと枯れる樹種もあるので、それぞれの鉢の管理が微妙に異なるのです。人間と同じように木にも個性があります。私は盆栽の中で実が成るものが好きなのですが、盆栽を始めた頃に不思議に思うことがありました。それは何かというと実が成った状態の盆栽を買っても翌年は実を成らせることが簡単にはできないことです。肥料不足が原因かと思い肥料を多くやると逆に木が若返って枝と葉だけが伸びて花は咲きません。なぜでしょう？理由は植物の生理現象を知ることになりました。木は根を鉢一杯に張り巡らせるとこれ以上成長できなくなると思い危機感を感じるそうです。鉢一杯の根は水を吸収できないので、枯れると思い子孫を残そうとします。それ故花を咲かせ実を成らせるのです。“可哀そう”と思い大きな鉢に植え替えたり、肥料も大量に与えたりすることはかえって良くないのです。私はこの植物のメカニズムを知らず逆効果のことをしていました。さて、生徒のみなさんは今必死になって勉強に取り組んでいます。少し鉢の中の植物と似ている状況かもしれません。受験勉強という環境の中で辛いと感じるかもしれませんが、この時期は木が根を充実させ花を咲かせるための準備段階だと思います。勉強するうえで大切なことは、目的を明確にすることです。漠然と本を眺めるのではなく何のためにこの勉強をしているのかを意識しましょう。自由な勉強と目的を達成する勉強を区別することです。また良いと思ってやっていることが実は良くない場合もあります。実が成る時期は人によって異なるかもしれませんが必ず何らかの形で報われると信じます。62 期のみなさん今を耐えて頑張ってください。応援しています。

